

【総合政策学科 国語基礎学力型】

問一	(1)	(2)	(3)	(4)
	体裁	台詞	横行	認識
	(5)	(6)	(7)	(8)
	包括性	可哀想	追随	実態
	(9)	(10)		
	廃棄	腐敗		
問二	I	II	III	IV
	3	5	4	4
問三	5			
問四	脱プラスチックやプラゴミ処理の問題にしても、それが地球環境の持続可能性を高めるのにどう役立つのかを深く考えず、行動だけが先走っている (66 字)			
問五	2			
問六	有害物質の出ない日本の優れた焼却技術を広め、プラスチックを自然界で循環させることで、廃プラスチックの埋め立てをなくし、海洋プラスチックを減らすことができるから。(80 字)			
問七	<p>現代人を困惑させる「キレイゴト」の一つとして「SDGs」が挙げられる。日本では環境問題と絡めて議論されるが、人々の理解が未成熟なまま欧米に扇動され「正しい」とされる行動だけが先行している。特に海洋プラスチックや焼却時の二酸化炭素などプラゴミに関する問題が危惧されており、世界的に脱プラスチックの風潮が強い。だが、二酸化炭素を植物が吸収することや、有害物質を出さない日本の優れた焼却技術の今後の浸透を想定すれば、焼却はプラスチックの循環を可能にするサステナブルな処理方法といえる。以上が筆者の主張である。</p> <p>確かに焼却のメリットは魅力的だが、筆者の議論には二酸化炭素の影響を軽視しているという難点がある。近年様々なメディアや国際組織が、地球温暖化や海面上昇など、気候変動に伴う深刻な問題を取り上げ、多くの専門家がそれらの原因として二酸化炭素の排出を指摘している。また、先進国のみならず多くの途上国が経済発展を目指すことで、今後二酸化炭素の排出量は増加していくだろう。このように、今後さらに気候変動が加速していく状況において、ゴミの焼却処理を奨励するような筆者の主張は無批判に受容されるべきではない。(496 字)</p>			